

科目名	ディプロマポリシー					科目の教育目標
	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】		
	患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。		
一般教養科目群						人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「ものの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。
	歴史と文化	○				・人間の営みが創造してきた文化や社会事象とその過程・現れ方などを学び、現代社会におけるそれらの意義を考える。 ・歴史を学び、これまでに形成されてきた文化や人間の有り様の表現、その広がりを学び、その意味について考え、探索する。 ・人文科学分野(歴史学、文学、言語学、考古学、地理学、文化人類学、芸術など)を中心に社会科学分野(経済学、社会学など)への裾野を広げる。
	人間と生命	○				・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問題を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。
	生活と社会	○				・生命の仕組みを理解し、現代社会を取り巻くさまざまな諸課題について考える。 ・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法律学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。
	自然と技術	○				・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代でもあり、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につけることを目標とする。 ・これまでの自然科学のみならず工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目	○				国際文化やグローバルスタンダードの理解を通して、実社会におけるグローバル化社会に対応した研究・開発・業務などの展開力を学ぶ。
	日本事情					留学生対象で、日本事情について、段階的、多面的に学ぶ。
イノベーション教育科目群	イノベーション教育科目	○				さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。
基礎基盤教育科目群						大学での専門分野を学ぶ前提となる数学・理科などの基礎学力を得ること、さらには自立的学習能力や心身健康の自己管理能力など、大学生としての基礎となる能力を修得する。
	高大接続科目	○				高校の数学Ⅲを未履修又は学びが不十分である場合、数学Ⅲについて学び、大学生としての基礎となる能力を修得する。
	自然科学入門	○				高校の物理学・化学・生物学の単なる補習でなく、高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身のまわりの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを学ぶ。
	基礎数学	○				専門分野での学びに不可欠な基礎学力を身につける。基礎知識の習得を目指した講義と、知識と実技の連携を目指す実験・実習を行う。
	医療情報処理(基礎数学)	○	◎			
	基礎物理学	○				
	基礎物理学実験	○				
	基礎化学	○				
	基礎化学実験	○				
	基礎生物学	○				
	基礎生物学実験	○				
	基盤教育学					
	ウェルネス総合演習			○		
汎用的技能教育科目群						学術的な手法としてのアカデミック・スキルを理解し、さまざまな知見を応用的、創造的に発揮するための論理的思考、倫理モラル、プレゼンテーションなどについて学ぶ。

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
		患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
科目名	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～	○	◎			専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
	情報科学	○				情報の取り扱いやその倫理などの基本を学ぶ。PC、計算ソフトの使い方から始まって、レポート作成法、PCを用いたプレゼンテーションへの対応やインターネットの利用、そのモラルを学ぶ。
	スタディスキル	○				学生生活に役立つ、効果的な学習スキルを身につける。
	コミュニケーション					自らのコミュニケーション能力を向上させ、他者と協力できる力を培う。
地域科学教育科目群	地域科学教育科目	○				地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指して、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
医療基盤教育科目群	臨床心理学	◎	○	◎	◎	医療系の学生を中心に、医療分野に関わる臨床心理学の基礎知識を獲得し、各自の専門領域において臨床心理学が果たす社会的意義を理解し、患者さんへの対応、チーム医療、健康な社会づくりを行うための技法を学ぶ。
外国語教育科目群						英語をはじめとするドイツ語、フランス語、中国語の学修を通じ、語学力や外国語を通して文化理解力の獲得を目指す。
	英語	○	◎			基盤英語は、大学で学修する上で基盤となる基礎力の確認と習得を目指す。主題別英語は主題に応じた内容の英語に関して、自主的能動的に学修することを目指す。発信型英語は、授業に積極的に参加し、英語の運用能力を高め英語による発信力を身につけることを目指す。
	英語以外の外国語科目	○				初修の外国語(「入門」と「初級」)について、基礎力と自ら学んでゆく発展力を学ぶ。
	日本語					留学生対象で、大学において授業を受けるために必要な日本語の運用能力を学ぶ。
専門教育科目	解剖学1AB	◎			○	解剖学(1)では、口腔領域のみならず人体全身について、歯科医師として、全人的医療に対応しうる肉眼解剖学の知識を修得させることが目標である。ここでは骨、筋、脈管、神経などの系統別に講義を行い、全身の解剖学の知識を習得させる。
	解剖学1C講義	◎			○	歯科医師に必要な口腔顎顔面領域と前頭部について、系統の異なる解剖構造の三次元構築を体表から部位毎に学ぶ局所解剖学の講義を行い、歯科臨床手技の解剖学的エビデンスが理解できるようにする。
	解剖学1実習	◎	○	◎	◎	無償で献体されたご遺体を用いて、全身の人体解剖を局所解剖学的に行うことで、座学で得た系統別の解剖知識を局所解剖学的なものに置き換えさせ、人体の解剖構造を全人的に理解させるとともに、献体の意義を体得させる。
	解剖学2AB	◎	◎	○	◎	1. 人体の構造は様々な細胞が集まって組織ができ、組織が組み合わさって器官ができあがり、さらに器官が集まって成立する。このような細胞、組織および器官の形態と機能を理解する。 2. ヒトの歯のひとつひとつの形態、異常、植立方向などの特徴を知り、それぞれの歯を識別する能力を養い、その相互作用を理解する。 テクニカルタームは英語またはラテン語を用い、グローバル化に対応するよう心掛けている。
	解剖学2C	◎	◎	○	◎	2年次後期で学習した一般組織学についての知識を基盤にし、歯と口腔及びその周辺組織の正常な構造を顕微鏡レベルで理解し、それに関連する発生学を学ぶ。テクニカルタームは英語を用いる。
	解剖学2実習	◎	○	◎	◎	1. 講義で習得した知識を基盤として、人体を構成する正常な器官の組織標本を実際に自分の目で観察し、器官の組織学的な特徴を理解する。 2. 歯牙解剖学講義で学んだ歯の特徴を基にして、彫刻刀を用い、石膏棒から歯の形を仕上げるにより、各歯牙の形態を理解する。 3. 講義で習得した知識を基盤として、顎・口腔領域の正常な組織標本を実際に自分の目で観察し、組織構造の理解をいっそう深める。
	生理学AB	◎	○	○	◎	正常な内分泌系の働きを学び、内分泌ホルモンの分泌異常がもたらす疾患についても理解を深める。神経系における情報処理の基礎的メカニズムおよび神経の興奮から筋収縮に至る一連のメカニズムを理解する。
	生理学CD	◎	○	○	◎	人体の各臓器・組織の働きについて理解する。また、神経系、および内分泌系による各臓器・組織の調節機構について学習・理解する。生体の情報受容機構と中枢における入出力の制御機構について理解する。

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
		患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
	生理学実習	◎	○	○	◎	人体の生理機能を、実際に自分の目で確かめ、測定し、その手技を習得する。さらに計測結果(数値)を統計処理などにより整理し、正しく図表に現す。得られた結果の生理学的意義について理解する。
	生化学AB	◎	○	◎	◎	生体の営みを分子のレベルで理解するために、 ①生体を構成する4大構成成分(タンパク質、脂質、糖質、核酸)の構造と機能 ②生命維持活動に必要なエネルギー代謝 ③遺伝情報の流れ について学習する。
	生化学CD	◎	○	◎	◎	生体の営みを分子のレベルで理解するために、「生化学A・B」で学習したことを基礎にして、 ①高次生体構造とその機能 ②人体諸臓器の発生・分化・加齢の仕組み及びそれに伴う変化や異常による病態 ③口腔内構造物の発生・分化・機能について学習する。
	生化学実習	◎	○	◎	◎	生化学講義で履修した内容を、実際に自分の目で確かめ、より理解を深めることを目的として生体成分の分離・定量や遺伝子操作の手技を習得する。さらに疾患モデル動物を用いて、その病因・病態を分子レベルで理解し、臨床生化学の基礎を確立する。
	病理学AB	○	○	◎	○	疾患の成立をトータルな生命現象として総論的に理解することを目的として、臓器・組織・細胞・物質レベルで学習する。
	病理学CD	○	○	◎	○	顎口腔領域の様々な疾患の成立をトータルな生命現象として理解することを目的として、臓器・組織・細胞・物質レベルで学習する。
	病理学実習	○	○	◎	○	人体の病的変化を肉眼観察と顕微鏡観察を通して臓器・組織・細胞レベルで理解する。
	病原微生物学AB	◎	○	◎	◎	微生物の種類と特性を理解する。免疫学の基礎を学び、感染と生体の防御機構を理解する。防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。
	病原微生物学CD	◎	○	◎	◎	口腔細菌の特徴と病原性を理解する。ウイルス感染と口腔関連疾患を理解する。
	細菌学実習	◎	○	○	◎	病原微生物学の講義で学んだ微生物学、免疫学を実際に体験することによって、理解をより深める。現在では分子生物学の分野においても微生物は頻繁に用いられているので、その取り扱いに習熟する。
	薬理学AB	◎	○	○	◎	薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、疾患の治療や予防に適する薬物を選択する能力を身につける。
	薬理学CD	◎	○	○	◎	薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、疾患の治療や予防に適する薬物を選択する能力を身につける。
	薬理学実習	◎	○	○	◎	講義で学んだ薬物を、実際に動物あるいは摘出臓器に作用させ、その効果を観察することにより、生体の機能と薬理作用の関係を具体的かつ総合的に把握する。
	歯科理工学AB	◎		○	◎	歯科材料に要求される物性と所要性質を理解し、歯科で用いられる材料の適切な成形・加工法を理解する。具体的には材料の一般的性質、評価法、金属・ポリマー・セラミックスの特性と成形法、材料の微細構造の制御とそれにとまなう特性の変化について学習する。
	歯科理工学C	◎		○	◎	歯科で用いられる材料の特性と適切な成形加工法を学ぶ。
	歯科理工学実習	○	◎	○	◎	材料の微細構造と特性の相関に関する理解と、材料の用途に応じた所要性質の理解を基に、成形法による材料の微細構造の変化とそれによる性質、形状などの変化を実験的に確認し、用途に応じた最適な成形法についての理解を深める。
	衛生公衆衛生学	◎	○		○	個人と集団の両者を対象として、健康の保持・増進と疾病の予防の実現を図る衛生学の全体像を理解することにより、歯科医師法第1条で定められた「歯科医師の任務」である歯科医療と保健指導の実践による公衆衛生の向上・増進への寄与を遂行するための、必須の素養を身に付ける。
	予防歯科学A	◎	○		○	歯科基礎医学の各科目の知識に基づき、口腔の健康な状態の特徴と病的変化を理解し、それを自ら解説できるようになる。そして歯科の2大疾患である齲蝕症と歯周疾患を中心に、歯科疾患の病因に基づく予防と、健康の保持・増進の科学的方法論の基本を身につける。
	予防歯科学B	◎	○		○	疫学を理解し、科学的根拠に基づいた歯科疾患の予防と口腔の健康増進の実践技法を解説できるようになる。集団を対象とした場合(地域保健活動)と個人を対象とした場合(歯科臨床)の相違点と共通点を説明できるようになる。

科目名	ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
	予防歯科学実習			○	○	◎	衛生学と予防歯科学の講義で習得した知識について、十分理解を深めるとともに、問題解決に必要な態度と能力を養う。基礎的実習、示説演習、歯ブラシ工場見学実習などを行い、衛生学と予防歯科学の素養を習得するとともに、環境衛生や公衆歯科衛生についての基本的な技術を身につける。
	歯科保存学1A		◎		○	○	1)歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解する。2)それらの疾患を認識するための診査法を知り、正しい診断が行える能力を養う。3)各種の治療・予防法について、その方法の背景や意義、術式、術後経過についての知識を修得し、治療法の臨床的選択を理解する。4)歯科に特徴的な治療法、すなわち欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基本知識を修得する。
	歯科保存学1B		◎		○	○	1)歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解する。2)それらの疾患を認識するための診査法を知り、正しい診断が行える能力を養う。3)各種の治療・予防法について、その方法の背景や意義、術式、術後経過についての知識を修得し、治療法の臨床的選択を理解する。4)歯科に特徴的な治療法、すなわち欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基本知識を修得する。
	歯科保存学1実習		○		○	○	歯科保存学講義で履修した内容を、模型あるいは患者の口腔内を想定したマネキンを用いて実際に各種の保存修復処置および歯内療法を行い、臨床実習に進む前により理解を深め、治療技術を習得することを目的とする。
	歯科保存学2A		◎	○	○	◎	歯周病の発症原因と病態を理解し、歯周病の診断、治療計画の立案、歯周基本治療を把握する。
	歯科保存学2B		◎	○	○	◎	歯周外科治療、歯周病のメンテナンスの概要を把握する。根尖性歯周組織疾患を理解し、その治療法を把握する。
	歯科保存学2実習		○		◎	○	歯周治療および歯内治療における診査法や治療法の実際を模型を使って把握する。
	歯科補綴学1A		○	○	○	○	歯列の全部欠損に対する補綴修復の意義と方法、高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴および口腔健康管理の重要性を理解する。
	歯科補綴学1B		○	○	○	○	歯列の一部欠損に対する補綴修復の意義と方法、高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴および口腔健康管理の重要性を理解する。
	歯科補綴学1実習		○	○	○	○	講義で得た知識をもとに、全部床義歯および部分床義歯製作の基本的な手技を修得する。
	歯科補綴学2A		◎	○		○	冠橋義歯による補綴治療に必要な基礎的な知識と術理について学習することにより、歯科医師として必要な能力の習得を目指す
	歯科補綴学2B		◎	○		○	冠橋義歯による補綴治療に必要な臨床的な知識と術理について学習することにより、歯科医師として必要な能力の習得を目指す
	歯科補綴学2実習			○	◎	○	冠橋義歯による補綴治療に必要な知識と術理を実践することによって、歯科医師として必要な技能の習得を目指す
	口腔内科学AB		◎	○	◎	◎	超高齢化社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。
	口腔内科学C		◎	○	◎	◎	超高齢化社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。
	口腔外科学A		◎	○	◎	◎	口腔外科的処置に必要な滅菌・消毒の概念・基本的処置法を身につけ、口唇・口腔・顎・顔面領域の外傷、先天性・後天性異常の病態を理解し、診断並びに治療法を修得する。
	口腔外科学BC		◎	○	◎	◎	口唇・口腔・顎・顔面領域の嚢胞性疾患、腫瘍性疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患の病態を理解し、診断並びに治療法を修得する。また、植皮などの再建外科についても修得する。
	歯科矯正学A		◎	○	◎	◎	歯科矯正治療を行う上で必要な知識[総論(歴史、成長と発育、咬合、不正咬合の原因)と診断学(診査、検査、症例分析)]を修得させる
	歯科矯正学B		◎	○	◎	◎	歯科矯正治療を行う上で必要な知識[治療学(矯正用材料と器具、固定、矯正治療に伴う生体反応、矯正治療における抜歯、矯正装置、不正咬合の治療、保定、不正咬合の予防)]を修得させる

・ディプロマポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー				科目の教育目標
	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	
	患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
歯科矯正学実習	◎	○		◎	歯科矯正学講義で履修した矯正装置を自ら作製することで、装置に対する理解を深め、矯正装置の作製方法や技工の手技を習得させる
小児歯科学A	◎		◎	○	胎児から20歳前後までの健康児、障害児、有病児の身体的成長、精神的・心理的発達について理解し、健全な顎口腔を育成することの臨床的意義と方法を理解する。
小児歯科学B	◎		◎	○	胎児から20歳前後までの健康児、障害児、有病児の健全な顎口腔の育成について、その臨床的意義と方法を理解する。あわせて、障害者の身体的、精神のおよび心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。さらに、小児歯科医療、障害者歯科医療における医療事故防止について理解する。
小児歯科学実習	◎		◎	◎	単に技工物の制作方法を習得するのではなく、実習を通して、講義で得た基礎的な知識と臨床の場での実際の診断法や治療法とを関連づけて理解する。
歯科放射線学A	◎		◎	◎	歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用について知識、技能および態度を修得する。
歯科放射線学B	◎		◎	◎	歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用について知識、技能および態度を修得する。
歯科放射線学実習	◎		◎	◎	歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用について基礎的な知識、技能および態度を修得する。
歯科麻酔科学A	◎	○	◎	◎	侵襲に対する生体反応の病態生理を理解し、関連する基礎医学的知識を習得する。生体の侵襲を制御し、生体を防御する方法を理解する。また局所麻酔法と精神鎮静法について説明できる。
歯科麻酔科学B	◎	○	◎	◎	麻酔前の患者の全身状態を適切に評価し、説明できる。全身麻酔について麻酔薬や機器に関する知識を習得する。さらに、歯科治療中の安全管理と危機管理を理解し、救急処置を習得する。
医学細胞生物学・人類遺伝学	◎	○	○	◎	1. 医学における遺伝学及び細胞生物学の基本的概念を習得する。2. 遺伝子発現調節機構がどのように個体発生や疾患に関与するかを解説する。3. 細胞内シグナル伝達ネットワークにおける蛋白質の翻訳後修飾(リン酸化・ユビキチン化・SUMO化など)の役割について解説する。4. 静的なゲノム一次配列情報を基にどのような動的な蛋白質や機能的RNA(小分子RNAやノンコーディングRNAなど)の多様性が生み出されるかを解説する。5. 疾患感受性や薬剤感受性などのヒトゲノムの多様性から個別化医療についても解説する。
歯学概論	◎			◎	歯科医療を支える基礎医学・歯学に焦点を絞って講義を行い、これから歯科医学、歯科医療を学ぶ歯学部学生としての自覚と意識を高めることを目的とする。歯科医学では、口腔顎顔面の構造と機能、ならびにこれらの領域に発生する疾患の病因、病態、治療、予防、さらには、他領域の疾患に随伴する障害、リハビリテーションとケアに関連する研究が行われている。口腔顎顔面領域は、全身各部位と緊密に関連していると同時に、その独自性も有する。この歯学概論では医学・生物学の基本的な知見に基づいて構築されている部分と固有の部分について講義をおこなう。
口腔と健康	◎		○	○	1)歯科医学・歯科医療とは何か、2)診療各科の現状と将来展望等について臨床各研究室(部)教授等により教授する。歯科医学・歯科医療を、「人間学」として広い視野で、疾病医療と保健医療の両面からとらえることができるようになることを目標とする。
歯科英語	○	◎		◎	歯科医師になるために必要な基礎用語、語源学、実用的な歯科英語に学生たちが慣れ親しませる。
医の倫理と安全管理	◎		◎	◎	歯科医療および歯科医学の研究における倫理の重要性を理解し、安心・安全の医療を提供するための基本的知識を身に付ける。EBMやNBMなど生涯学習方法について身に付ける。
医療コミュニケーション	◎		◎	○	患者本位の医療を実践するためのコミュニケーション能力を身に付ける。
社会と歯科医療	◎		○	○	国民の健康確保のための歯科医学・歯科医療の仕組みについて、関連する保健・福祉・介護サービスの仕組みとともに、歯科医師としての関わりの立場から学習する。あわせて、地域医療・地域貢献などの現状を理解し、今後のあり方について考える。
加齢歯科学	○		○	○	高齢者の口腔管理、歯科治療、歯科関連リハビリテーションに必要な基礎的な知識を学習する。
バイオマテリアル・バイオエンジニアリング	◎		◎	◎	材料と生体、あるいは生体を構成する器官や組織、細胞や細胞外基質の相互作用を巧みに生かした、新しい診断や治療の方法が医療の中で極めて重要になってきている。こうした治療に利用される材料(バイオマテリアル)の材料科学、生体の応答、生体計測法とその臨床応用技術についての、基礎と臨床を融合した、口述を通して、先端歯科治療を考える。

・ディプロマポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー				科目の教育目標
	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	
	患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	科目の教育目標
口腔インプラント学	○		○	○	歯列欠損の補綴治療として確立したインプラント治療を行ううえで、必要な知識を修得することを目的とする。
早期体験実習	◎		◎		早期体験実習は、歯学部に入学者を対象に、早期に歯科医師としての自覚や倫理感をもたせるとともに、実際の歯科医療の現場を見学することによって、これから学ぶ歯科基礎および臨床科目に対する学習意欲の向上をめざすことを目的として、平成6年度から導入された科目である。方法としては、1グループ4人の班に分かれて、毎週金曜日の午前、徳島大学病院(歯科部門)の13診療科(部)等を1診療科ずつ13週かけて廻り、歯科臨床の概要を把握する。更に、実習日の1日は高齢者福祉施設において口腔保健学科教員が行う「お口の健康長寿教室」に同行し、教員の補助を行う。一般目標 歯科医療全般を理解し、医療人としての目的意識を持つために、歯科臨床外来を見学・体験する。行動目標(到達目標) 1) 各診療科外来における歯科治療の概要を説明する。 2) 診療室での院内感染対策の概要を説明する。 3) 診療室での医療安全対策の概要を説明する。 4) 歯科診療におけるチーム医療を説明する。 5) 歯科学の基礎的知識と歯科臨床との結びつきを概説する。 6) 歯科医師、歯科衛生士になるために必要な事項の要点を概説する。 7) 医療人としての目標を概ね設定する。 8) 基本的マナーを守る。 9) コミュニケーション力を養う。 10) ホスピタリティー・マインドをもって対応する。
統合臨床講義	◎	○	○	○	基礎歯科医学、隣接医学および臨床歯科医学の概要を学習した学生に対して、臨床実習を受ける前に、各科目の知識を統合させ、実際の臨床の諸問題を解決できる能力を養わせることを目的とする。さらに基礎医学の必要性を自覚させ、臨床歯科医学と隣接医学との関わりを説明し、歯科医学における基礎医学と隣接医学の重要性を認識させることを目的とする。方法として、12の診療科あるいは分野が2~3回の授業を担当する。各診療科あるいは分野の教員はそれぞれの特色を生かしながら、歯科臨床科目を修得した学生に対して、もう一度基本に帰って基礎的なことを中心に理解しやすいように工夫した講義を行う。日程表は教務委員会で決定する。 【障害者歯科学】心身に障害のある人の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。
研究基礎ゼミ	◎	○	◎	◎	研究基礎ゼミは、歯学科の研究室(診療室を含む)に学生が実際に出入りしながら研究生活の一端を体験し、人的交流をはかることによって全人教育をめざすことを目的とする科目である(平成7年度より実施)。このゼミを通じて、専門英語論文の読解力の向上、研究や臨床における問題点の提起あるいは問題解決能力の育成など、自ら考えることのできる機会を学生に与えるとともに、この科目が基礎科目や臨床科目を学ぶにあたっての勉強意欲の向上や将来研究者を目指す学生への動機付けの場となることを期待する。方法として、学生を20研究室に固定配属する(各研究室2~3人)。学生の配属先は学生の希望を考慮して教務委員会で決定する。
歯科臨床示説	◎		◎	○	歯科臨床示説は、臨床研究室・診療科等の教員がそれぞれの専門分野の臨床症例を主にスライドなどで提示しながら、病態、診断、治療、経過等について実践的な面からの講義を行う。この講義を通じて、学生諸君が日々行っている臨床実習内容を実際的に把握するとともに、関連臨床知識の理解を深めることを目的とする。方法としては、各担当科が2~3回ずつ担当し、計30回の示説を行う。
臨床実習	○		◎	○	1) 臨床実習は、患者の「人としての尊厳」を守りながら歯科診療を行うことで、医療人としての心を養うことができる。 2) 臨床実習は、歯科診療の実践を通じて、基礎系・臨床系を問わず座学で学んだ各々の教科(学問)を有益的に結びつけ、歯科医学をさらに深く理解することができる。 3) 臨床実習は、歯科診療に関わるあらゆる専門職の方々とともに患者に向き合うことによって、歯科医療の臨床体系を理解することができる。
内科学第一	◎	○	○	◎	血液学、神経学、内分泌代謝学を総論と各論にわけて教授する。目標はそれぞれの分野の基本的知識の修得である。
内科学第二	◎	○	○	◎	消化器および循環器疾患は内科学のなかでも特に頻度の高い領域である。本講義においてはそれらの基礎・臨床的な考え方や知識について教育する。また、消化器・循環器疾患のなかで歯科領域と強く関連した臨床的知識についても理解を深める。
内科学第三	◎	○	○	◎	呼吸器病学、感染症学、膠原病学、アレルギー学について総論と各論を教授する。目標はこれら疾患の基礎的知識の習得と理解を図ることである。
外科学第一	◎	○	○	◎	この授業では、外科学の基本的な疾患、特に消化器外科・小児外科領域、心臓血管外科領域、脳神経外科領域の疾患についての理解を図る。
外科学第二	◎	○	○	◎	胸部・内分泌・腫瘍外科学(旧第2外科学)は専門分野として胸部外科、内分泌外科、消化器外科(食道)を受け持っている。よって、胸部、内分泌、消化器などの各臓器の解剖、生理機能、組織病理を講義するとともに臨床における診断治療(主に手術についても講義し、できるだけ歯学部の学生に興味のある内容を講義するよう努めている。
小児科学(隣接医学C)	◎			○	小児科学の全般を総論と各論に分けて小児の成長・発達及び小児疾患について教授する。目標は小児の保健学と治療小児科学の知識を修得させる。
臨床検査医学(隣接医学C)	◎			○	歯学部の4年生を対象として、検体検査(一般検査、血液形態検査、止血凝固検査、生化学検査、免疫血清検査)の意義と実践、また、その測定値の読み方を教育する。

・ディプロマポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
		患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
科目名						
	耳鼻咽喉科学(隣接医学A)	◎			○	耳鼻咽喉科・頭頸部外科対象領域の諸器官は、聴覚をはじめ多種類の感覚を成立させるとともに、言葉によるコミュニケーションを実現させるための場にもなっており、ヒトの生物学的および社会的存在のために大きな役割を演じている。こうした特性をふまえて、この領域における諸疾患の診断、治療ならびに予防についての知識を修得させることを目標とする。講義形式で行う。
	神経精神医学(隣接医学B)	◎			○	精神疾患を持つ患者の診察に際して必要となる面接方法、精神症状の捉え方、各疾患の臨床像、治療、予後についての知識を習得することを目的とする。
	整形外科(隣接医学B)	◎			○	整形外科は、運動器を担当しており、分担範囲は、脊椎、脊髄、末梢神経、骨・関節、筋と多岐にわたっている。治療も保存的治療、外科的治療と広範囲に及ぶ、高いQOLが求められる現代生活において移動の自由を保障する運動器の健康は必須のものといえる。主として臓器別に、自らが経験するであろう身近な疾患を中心に講義を進める。講義内容についてはプリントを用意する。
	産科婦人科学(隣接医学B)	◎			○	産科婦人科学は、妊娠、出産を学ぶ産科学と女性の内分泌動態や生殖器の腫瘍疾患等を学ぶ婦人科学に分かれる。すなわち、出生、成熟、妊娠、出産、老化という女性の一生を対象とする学問である。産科婦人科学の基本的知識の習得を目指す。
	眼科学(隣接医学A)	◎			○	眼科学の全般を、総論1回と各論3回に分けて教授する。総論は、眼球および視覚路の解剖、生理機能および検査法について述べる。各論は、眼球を主体とした各組織の疾患について解説する。これらを通し眼科学の知識、視覚の大切さを修得させる。また、医療従事者として、知っておく必要がある伝染性眼疾患、視覚障害者の誘導法について学ぶ。
	皮膚科学(隣接医学A)	◎			○	皮膚科学の総論と口腔粘膜病変を伴う皮膚疾患と皮膚感染症とを教育し、認識させる。講義形態で行う。
	泌尿器科学(隣接医学B)	◎			○	泌尿器科学を総論と各論に分ける。総論においては、解剖・生理、症状・症候、泌尿器科の検査について概説する。各論においては、代表的疾患として、腫瘍、結石、感染、排尿障害をきたす疾患について講義する。泌尿器科に特異的な、尿路および男性生殖器の生理機能、疾患、検査法、治療法についての理解を深めることを目標とする。歯学部の子供にとって泌尿器科には今後接する機会が少ないと考えられるが、患者を治療する上では、腎機能障害等知っておかなければならないことも多く、基本的な知識については特に習熟して欲しい。
	栄養学(隣接医学C)	◎			○	栄養学は、食物とヒトの相互作用を研究する学問であり、大きく基礎栄養学、臨床栄養学及び公衆栄養学に分けることが出来る。講義時間が限られているので、栄養学のトピックスについて取り上げることとする。
	医事法制／法医学(隣接医学C)	◎		◎	○	医事法制は医事に関する法規や制度などを研究することによって、医療の完全実施を図ろうとするもので、医療関係者が法規や制度に対する認識を深めることにより、医療や看護の万全を期し、不慮の事故を未然に防止しようとするものである。歯学・医学本来の目的は、人類の健康を保持し、疾病の災厄を除去または軽減し、人類共存共栄の実をあげようとするにある。社会制度としていかにこれを取扱うかによって大きな影響を受ける。歯学・医学と法律制度との密接な関係をみることが出来る。法医学とは、医学的解明、助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学であると定義されている。歯学・医学における法医学の意義を考える。
	総合歯科学一	◎			◎	基礎歯科学で学習したことを臨床歯学の基礎として統合し、理解する力を育成する。
	総合歯科学二	◎			◎	これまで授業等で学んできた知識をもう一度復習・整理して再確認するとともに、さらに、これらを統合して深め、実際の臨床実習に役立てることを目的とする。
	総合歯科学三	◎	○	◎	◎	テーマ1・法歯学・補綴学・口腔外科学について、これまで講義できなかった項目を補いながら授業を進める。テーマ2・基礎系科目および臨床系科目において習得した「歯周病」について、知識の整理を行うとともに、総合的な観点から「歯周病」を理解することが大きな目的である。歯周病の病態を細菌学的、免疫学的、生化学的側面から理解し、また全身との関わりを学ぶことに加え、臨床面での新しい診断法や治療法の実践を修得する。